



神取 忍さん

かんとり

しのぶ

「史上最強の女」の

優しさ

3年前から共同募金に寄附20回

——横浜生まれで横浜育ち。高校は横浜学園だそうですが、よく学校を休んで、あまり褒められた生徒ではなかったと聞いていますが…。

「んー。まあね。でも、出席日数は足りていたし、ちゃんと卒業していますよ。だけど、今はまとも。人間、変われば変わるもんだなあ」

——学校を休み、部屋を借りていた友達のところへ行って、ゴロゴロしていた高校時代。シンナー中毒で亡くなったり、バイクで事故死した仲間もいたという。けんかもよくした。周りはみんな「フル」で、自分もその一人だったことを否定しない。

——今は、過去を笑い飛ばしながら話せるようですが、何があなたを変えたのでしょうか…。

「逃げ道があったんですよ、逃げ道が。それは柔道。」

——柔道には興味がありましたね。負けず嫌いだっだし、強くなるうと柔道には打ち込んだ。目標を持てたことが自分を変えた。

——今の若い人、フラフラしている。自分もそうだったから、でかいこと言えないけど、目標を持ってないんじゃないかな。決して優等生でなくたっていい。何か目標を持って、興味あるものを見つけて、そこから何かをつかむ努力をする。そうすれば人間を変えることができる」

——高校時代から、全日本女子柔道選手権に出場して注目を浴びていましたが、卒業後は大学へは進学せず、実業団にも所属せず、「無職」の肩書きで試合に出ています。いろいろ誘いはあったでしょう



本名：神取しのぶ
昭和39年生まれ 横浜市磯子区出身

プロフィール：
昭和54年 横浜市南区の町道場で柔道を始める
昭和58年～60年 全日本女子柔道体重別選手権66kg級で3連覇
昭和60年 柔道引退
昭和61年 女子プロレス界に入る
平成4年 風間ルミ選手とLLPW (Ladies' Legend Pro-Wrestling) を設立
平成10年 LLPW・WWWAのシングルスチャンピオンに

つつ

「確かに、有名大学から推薦入学の勧めがきた。だけど、組織や団体に所属するのって本質的に好きじゃなかった。だって、一人の方が気楽でしょ？ 束縛されないし…。柔道は好きだったけど、柔道部に入って、上の人や先輩から指示されるのは大嫌い。アレルギーが出ちゃう」

——高校卒業後、どこの団体にも所属せず、昭和五十八年から六十年まで全日

——本女子柔道体重別選手権六十六kg級で三連覇を果たしたほか、五十八年には、福岡国際柔道女子選手権二位、五十九年は世界選手権三位になり、六十年の福岡国際選手権三位を最後に柔道を引退、女子プロレスの世界に身を投じる。

——柔道の世界で、神取さんは一匹おおかみでしたが、プロレス界でも、当時タブーであったフリーを宣言したり、契約条件で会社と争うなど、異端児とされています。

——「自分が納得しなければ妥協できない性分だと思う。プロレスに入った当時、試合中にけがをしても何の保障もなかった。遊んでけがしたわけじゃないのに、そんなのおかしいでしょ。契約で争ったこともあったけど、プロレス界が抱えていた変な常識をぶち壊したかっただけ。それが異端かなあ」

——しかし、組織を嫌う一匹おおかみが、平成四年のLLPWという組織の旗揚げに参画しました。ちょっと考えられませんが…。

——「環境が人を変える、ってあるんだなあ。」

——所属していた団体の解散が出発点だったんだけど、このままプロレス人生終わってしまえるか、って思ってた。それに「神取が作ったLLPWなんて」とも言われなくなかった。だけど事務所も無い、お金も無い。無い無い尽くしのスタートだったけど、負け組にはなりたくない。勝ち組にならなきゃ、って思ったから夢中だった。その代わり、無から有を作り上げる楽しさ・醍醐味を知って、自分も変わった。環境が変わると、人は変わるよ」

——LLPWは、旗印の一つに社会貢献を掲げています。そして神取さんは、平成十年から二十回にわたって共同募金会に寄附を続けています。金額は毎回三万

円、合計で六十万円に達しました。どんな気持ちで寄附を行っていましたか？

——「神奈川県は地元だし、三年前から始めさせてもらいました。そんな金額になったの、知らなかった。」

——私がこの世界で頑張れるのは、身体が頑強だから。だけど社会の中で、強い者が弱い者を助けたり、健常者がハンディある人やお年寄り・子供をいたわるの、当たり前の話でしょ。それを寄附という具体的な形で現しているだけ。災害なんか起きると見ていられないから、少ないけど寄附しているんです。だけど、あんまり無理はしたくないなあ。勝利者賞や激励賞などをもたらした時とか、できる範囲でこれからも続けるつもり」

——平成十年には、LLPWとWWWAのシングルスチャンピオンとなり、史上初の二冠を達成した。

——今は、タイトルを奪われ無冠となったが、必殺技「脇わき」回め「腹固め」を武器に、激しい格闘技の世界に生きる「史上最強の女」の素顔は、気負いが無く、深い思いやりと優しい心の持ち主でもある。

聞き手 大谷義輝
(神奈川県厚生文化事業団 専務理事)

